

公益信託世田谷まちづくりファンド

第32回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【1回目応募グループ】

<2-1 チームフランポネ>

- ・漫才フェスを最終目的とした複数回開催の漫才作成講座を通じて、属性やバックグラウンドに関わらず「笑い」という切り口で地域の人々が楽しんで繋がる可能性のある取り組みが素晴らしいです。世田谷区内の各所で毎年開催することで、世田谷中に「笑い」と「繋がり」をたくさん作ってくださることを期待します。

<2-3 まっちはこっち>

- ・「子どもの自由な表現遊びを後押しする」など申請書に「活動の目的」として書かれていた5つの目的全てに共感していたのですが、役割分担されたプレゼンテーションを聴いて「まっち」一人の取り組みではなく活動に共感し、参加者が仲間になっている、審査会も「まっち」にとっては「地域活動にコミットするきっかけづくり」が体现されている機会なのではと勝手に解釈し「これこそ本当のコミュニティデザインなのは」と感心してしまいました。

<2-4 子育てサロンほっこり>

- ・ロコミの広がりや、同様の活動をしている人が出てくるといった成果は、誠実で丁寧な活動をされてきたからこそと思います。常に相談を受け入れる気構えで、オンオフの切り替えが難しそうと感じましたが、無理をなさらず、長く続けていただければと思います。参加費の値上げ等、受益者に負担していただくことも、無理をしないためには必要なことかもしれません。

＜ 2－5 世田谷中町コーヒークラブ＞

- ・社会参加に及び腰になりがちな男性高齢者に働きかけ、対話を促す“出張コーヒースervice”を展開されています。「まちづくりの主体は若い人が担うべき」という風潮がある中、90代になる申請者が世の中を良くしたいという思いで発起された点、さらに活動が周知されて区内の多数の団体から出張依頼の声がかかるようになってきている点を評価しました。これからも元気にがんばってください。

＜ 2－6 自然栽培ダイチの力＞

- ・農にふれたいという区民は多く、ともに野菜を育て、収穫し、味わうという取り組みはとても魅力的に感じます。自然栽培なので手入れはあまり必要ないとのことでしたが、地域のコミュニケーションの場としても、近隣の方がふらっと立ち寄った時に何か関わることができるような、そんな気軽な入口も用意できたら良いと思います。

＜ 2－7 きものおはりこ七彩庵＞

- ・はじめの一步の助成をきっかけに、他団体との連携が生まれるなど、活動の広がりが見えてきたことが何よりの成果だと思います。SNSのフォロワーが増えているとのことですが、和の魅力を伝えたことで、ワークショップ参加者から協力者へ、そして仲間づくりへと、団体としてステップアップにつながっていったと思います。

＜ 2－8 おやこ和文化プロジェクト＞

- ・MAPとSNSで「和」をテーマに世田谷の情報発信していくため、昨年度に引き続き世田谷区のさまざまな団体や企業とのつながりを活かして実施する計画です。試行錯誤しながら進めていることと思いますが、今年度、関わる団体や企業が多くなり発信先も多くなっても、その関係性が希薄にならないよう、また「和」というテーマを揺らがせないよう、取り組んでくれることを期待します。今後の飛躍のために人的・資金的リソースの確保も検討いただきたいと思います。

＜ 2－9 祖師谷子育てネットワーク「そこだね」＞

- ・新規活動「出産祝いを贈るプロジェクト」は、プレゼントを受け取った親子がもらったきりにならず、祖師谷の子育てやまちづくりに積極的に参加していくように仕掛けてください。また子育て情報を掲載したWebやマップは、未就学児を持つ親としてとてもニーズがあると感じていますが、維持・発展が非常に難しく、事前に相当な事例研究と戦略づくりが必要と思います。